

発言No.

18

受付No.

17

令和

6

年

8

月

22

日

10時

30分

受付

一般質問発言通告書

議席番号 9 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

☒ 市長 ☒ 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 防災・減災対策について

(1) 気象防災について

- ① 気象庁では各気象台に、地域ごとの災害特性を踏まえた担当チーム「あなたの町の予報官」が設けられているが、連携の状況について伺う。
- ② 予報の解説から避難の判断まで、一貫して扱える「気象防災アドバイザー」については、島根県内でも1市2町(雲南市・奥出雲町・飯南町)で任用されているようだ。地域防災計画等の見直しの際や防災訓練における講演など、浜田市での活用状況について伺う。

(2) 女性人材の登用について

- ① 防災・減災対策に女性の視点を活かすことが求められている。自主防災組織や浜田市防災会議などの組織における女性の登用の状況を伺う。
- ② 浜田市の防災安全課では現在、女性の職員が配置されている。今後も担当課には必ず女性職員を配置していただきたいと考えるが所見を伺う。

2. マイナンバーカードについて

(1) マイナ保険証について

- ① 今年の12月2日からこれまでの健康保険証は新規発行されなくなり、その後はマイナンバーカードでの保険証利用を基本とする仕組みに移行される。マイナンバーカードについては、今年の7月1日時点で、国民の約81%が保有しているが、健康保険証としての利用については、5月時点で全体の約7.73%にとどまっているようである。浜田市での状況を伺う。
- ② マイナンバーカードを活用した「マイナ保険証」については賛否両論あると認識しているが、マイナ保険証を保有していない方への対応はどのように行われるのか伺う。

- ③ 総務省では来庁が困難な方への支援として、「施設等に対するマイナンバーカードの取得支援」という事業を実施しており、行政職員が希望のある施設や自宅等に出向いて申請の受付ができるとのことである。マイナンバーカード交付事務費として10/10の国庫補助となっていますが、このような取組みの必要はないか伺う。
- ④ 患者の薬や診療データに基づいてより良い医療が提供され、高額療養費制度の限度額適用認定証が不要になるなど、患者と医療機関それぞれにメリットがあるとのことですが、今後の利用促進をどう進めていくのか伺う。

(2) 緊急時の活用について

- ① 大規模災害時に、開設された避難所での、マイナンバーカードを使った「入退所管理」や「薬剤情報の管理」を行う実証実験が行われた結果、「入退所の手続き」がスムーズかつ正確に行われ、避難者の把握にかかる時間が10分の1に短縮されたとのこと。今後、避難所でのマイナンバー活用は浜田市でも想定されているのか伺う。
- ② 浜田市ではマイナンバーカードを活用した救急実証事業が、8月23日から開始されました。始まったばかりだが活用状況を伺う。
- ③ 救急車でマイナンバーカードを活用するにあたっては、専用の資機材が必要となるが、他市のホームページで実証事業を見た際に、資機材（タブレット）など実証事業に掛かる経費はすべて消防庁負担で、実証事業終了後も必要な資機材は無償貸与となると記載されていた。浜田市でも同様の取組なのか伺う。

3. 引きこもり支援について

- ① 8月21日に総社市へ伺い、ひきこもり支援について視察を行った。引きこもりに対する理解を深めていただくために、独自のテキストを作成され、「ひきこもりサポーター養成講座」を開催されている。理解者が増えることで早期の発見や、地域で支える仕組みにも繋がることから重要と感じた。浜田市でもこのような取組が考えられないか伺う。